

東京医科大学霞ヶ浦病院 内視鏡センター

医療の質的向上と安全性の確保を
最優先させた
患者満足度の高い医療サービスを提供

徹底したリスクマネジメントと情報開示の精神が
患者様との信頼構築につながる

東京医大霞ヶ浦病院は昭和23年の開設以来、地域密着型の医療サービスの実践と、臓器別研修体制を特色とする国内有数の研究教育を行っています。また、内科、外科の大学の講座を中心に、基礎研究を含めた学会活動を活発に行っており、教育・研究・診療を三本柱とした教育医療機関の機能をもつ総合病院として発展してきました。

同院では、東京医科大学建学以来の「正義・友愛・奉仕」の精神に基づき、医療の質と患者サービスの向上に最も注力しています。そのため、平成17年1月には院内に「医療の質検証委員会」を設置し、医療の質の検証と安全性の向上・確保を徹底するとともに、その情報を広く一般に開示しています。また、患者相談窓口や医療福祉相談室、セカンドオピニオン外来などを設け、患者さまの知る権利を重視したオープンな医療サービスの提供に努めています。

先端技術の導入と感染管理の徹底が
誠実で質の高い医療サービスを提供する

内視鏡センターでも、看護部目標の一つである「患者の安全・安楽を保障し看護サービスの向上に努める」をモットーに、患者さまが安全で苦痛の少ない内視鏡検査や治療を受けていただくよう、新しい技術の導入や感染管理に取り組んでいます。内視鏡センターは外来部門としての性質を備えているため、ロールプレイングの実施やインシデントレポートに基づいたスタッフ間のカンファレンス励行による情報共有などを徹底し、病院の顔として患者さまの接遇や看護サービスの充実に努めています。

患者さまに苦痛の少ない内視鏡検査を提供するため、内視鏡センターでは2004年11月に県南地区で初めて、経鼻内視鏡を導入しました。消化器内科の助教授である溝上裕士先生は、「導入目的は咽頭反射が強い、もしくは開口障害がある患者さまにも内視鏡検査を受けていただくためでしたが、スコープ径が従来の半分で挿入がスムーズであり、鼻への麻酔も微量で患者さまの身体的負担がかなり軽減できました。また、患者さまが検査中



〒300-0395 茨城県稲敷郡阿見町中央3丁目20番1号
院長：松岡 健 病床数：600床
【年間内視鏡検査数】(平成18年度)
上部内視鏡検査数 3,155件 下部内視鏡検査数 1,375件
ERCP 87件
スタッフ：医師26名 コメディカル6名(うち看護師2名、
内視鏡技師 3名、看護助手1名)

モニターを見ながら質問や違和感を訴えることができるので、検査の安全性と患者様の満足度の向上に貢献しています。その結果、スタッフも患者さまとの信頼関係を築きやすくなりました」と経鼻内視鏡の導入効果をご説明いただきました。現在では、院内掲示や新聞等の広報活動を通じて、内視鏡検査に抵抗感のある患者さまに気軽に検査を受けていただけるよう尽力されているそうです。また、検査を受けられた患者さまに対するアンケートの実施や、学会等での研究会に積極的に参加することで、より質の高い安全な検査を追究しているとのことでした。

感染対策としては、安全な内視鏡検査と治療の提供を第一に、また検査や治療における感染防止は医療従事者の重大な責務と考え、内視鏡技師会の推奨するガイドラインを遵守し、全症例間のスコープの高水準消毒を実施しています。また、ガイドラインの提言に伴い2002年には生検鉗子を完全ディスポーザブル化しました。以前はリユース製品を使用していたが、使用後の一時洗浄に加えて超音波洗浄機による洗浄とオートクレーブ滅菌など、再生までの工程に多くの時間と人件費を要していました。また、繰り返し行う再生使用のために製品が劣化し、スコープ損傷を招くリスクも考慮し、ディスポーザブル化に踏み切りました。導入後はスタッフの業務量が大幅に削減できたことを実感されていますが、現在では感染対策は必要経費という考え方が定着し、生検鉗子以外の処置具のディスポーザブル化も実現しています。



内視鏡センターのみなさん(前列中央が溝上先生)